

# 上代郷総鎮守 左右神社

## 境外社 櫻井子安神社 社報

発行 左右神社 社務所

発行日 令和三年一月一日

### 秋の実りを願って

今夏、全国各地で発生した豪雨において被災された方々に衷心よりお見舞いを申し上げ、被災地の一日も早い復興と、被災された方々の心と生活に平穏が戻ることを願っています。今年には梅雨の長雨による、作物の出来が心配されますが、実りの季節である秋には、収穫物を神様にお供えし、感謝するお祭りが全国で行われます。

十一月二十三日の勤労感謝の日には、その年に取れたお米を神々にお供えし、恵みに感謝する「新嘗祭」にいなめさいが、宮中並びに全国の神社で行われます。昨年は、天皇陛下御即位の後、初めて行われる新嘗祭にあたる御一代一度の「大嘗祭」だいじょうさいが行われたのは記憶に新しいことでしょう。天皇陛下はみずからお育てになった新穀をお供えされ、御自身も召し上がり、国家・国民の安寧を祈念し、五穀豊穰を感謝されました。

今年には新型コロナウイルス感染症の流行により、神賑行事等の規模の縮小の検討が余儀なくされていますが、神社でのお祭りは、感染症予防対策を行った上で、粛々と斎行しています。皆様への感謝の気持ちを忘れずに、個々でお参り戴けますと幸いです。



### お月見

中秋（旧暦八月十五日）の夜は昔から観月に一番良い時期とされ、月見団子や神酒をお供えして月を眺めて楽しみます。今年には十月一日が中秋にあたりますが、この時期に収穫された里芋を供えることから「芋名月」と呼ぶ地方もあります。また、中秋の名月に対して、十三夜（旧暦九月十三日）の月を「後の月」といい、中秋の名月の次に美しい月と言われます。十三夜は「栗名月」や「豆名月」とも呼ばれ、今年には十月二十九日にあたりますが、この時期食べ頃の栗や豆を供えます。

十五夜・十三夜の一方のみ月見をすることは「片月見」と呼ばれ、両方見ることが良いとされています。

これは日本固有のもので、秋の収穫祭の一つだったと考えられています。



「七つまでは神の子」という言葉が表すように、医療技術の乏しかった昔は、乳幼児が無事に育つかどうかは、神様にお任せするしかありませんでした。

七五三は、古くからの風習である三歳の「髪置」、五歳の「袴着」、七歳の「帯解」に由来しているといわれ、江戸時代頃より秋の稲刈り後の頃に、子供が無事に育つことができたことを家族でお祝いしてきました。これまで見守って下さった氏神様やご先祖様にお参りをして感謝の気持ちを表し、これからの健やかなる成長をお祈りしましょう。



年齢	数え年	満年齢
三歳 (男児・女児)	平成30年生 (2018年)	平成29年生 (2017年)
五歳 (男児)	平成28年生 (2016年)	平成27年生 (2015年)
七歳 (女児)	平成26年生 (2014年)	平成25年生 (2013年)

※数え年：生まれた年を一歳として、以降正月になると一歳加える。

## 神社の豆知識

### 社殿について

各地の神社にお参りすると、神社によって社殿の形式が異なっていることに気づきませんか。

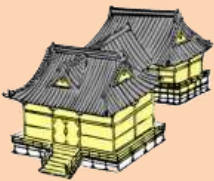
様々な種類の建物が存在しますが、大きくその様式を二つに分けることが出来、一つは、高床式の穀物蔵の形から発達した「神明造」、もう一つは古代の住居の形から派生した「大社造」です。神明造に代表される建物は伊勢の神宮（特に唯一神明造と言います）、大社造に代表される建物は出雲大社で、その他、神明造から派生した流造や八幡造、大社造から派生した住吉造や春日造、その他権現造や浅間造などがあります。神社に訪れた際にはぜひ、その社殿の形の違いについて、見比べてみて下さい。



神明造



大社造



権現造



浅間造

## 日本の稲作の始まり

『日本書紀』に見る齋庭稲穂の神勅

天照大御神は皇孫の瓊瓊杵尊を地上の葦原中国の統治者とされるにあたり、幾つかのお言葉を授けました。その一つが齋庭稲穂の神勅で「私が高天原（神の国）で耕す齋庭の稲穂をわが御子に授けます」と仰られ、高天原で作られていた稲を与えられました。こうしてお米は我が国の主食となり、大切にされてきました。今でも神社ではお米がお供えされ、天皇陛下もみずからお育てになり、新嘗祭でお供えされています。今年も『日本書紀』編纂千三百年にあたる年。改めて稲作の歴史とその大切さを学ぶとともに、我が国のはじまりの歴史に触れてみてはいかがでしょうか。

七五三の歴史や社殿などの説明は神社本庁のHPで紹介しています。詳しい情報を知りたい場合は神社本庁のHPをご覧ください。



家内安全・身上安全・商売繁盛・初宮参り・七五三詣・学業成就・合格祈願・交通安全・縁結祈願・子授祈願・安産祈願・厄祓い・病氣平癒・心願成就・地鎮祭・竣工祭・自動車清祓など様々なご祈願を受け付けています。

いつもより神さまに近い場所で、願意を届けてみてはいかがでしょうか。

ご祈願についてのお問合せは社務所まで  
連絡先 左右神社・櫻井子安神社 社務所 9〜16時

〒289-0504 千葉県旭市櫻井1264

☎0479(68)3387

☒ホームページ問合せフォームより受付